

## (二) 田畑の改良工事



(工事前の田んぼ)

大玉村は、農業を中心とした村で、とくに、米、やきいづくり、肥育、らく農が、さかんな農村ちたいです。今から、三十年前の一九六五年（昭和四十年）ごろの、田んぼや畑は、小さな田んぼであぜ道はまがりくねって、形がわるく、いちいち手でやる作業が多くてたいへん苦ろうしていました。

世の中が進歩して、機械化がすすみ、農業のしかたがかわってきました。

そこで、大玉村では、このすすんだ社会から、おくれではならないと、村の人々が考え、新しい農業をめざすことになりました。

それには、まず、田や畑を使いやすいように考えたわけです。この新しい工事は、一九六四年（昭和三十年）に、土地きばんせいびきょうぎ会をつくり、こ